

あなたの周りにはこんな声がありませんか？

うちの母は、物忘れが多くなってきたけど、今のところ日常生活に支障はない。親しい人や近所（親戚）に一言言っておくべきかな？ ただ、「そんな人を一人だけで自宅に置くのか」と言われても、私も日中仕事に出ているので困ってしまう…。



[アドバイス]

親しさにもよりますが、近所の人に「最近物忘れがあるので、何か気になることがあったら教えてください」と、声をかけておくといいでしょう。見守りや声掛けなどのサポートをしてくれるかもしれません。



最近、近所のおじいさんからよく「物を貸してほしい」と言われて、貸してあげている。たびたびのことなので「本当に必要なのかな？」と感じる。家族に言ってよいものか？



[アドバイス]

ご家族には、自宅でも状況を把握していただくように、連絡を入れることをおすすめします。“お互いさまの気持ち”で見守れるといいですね。



うちの父が、以前に比べてボーっとしている時間が多くなった気がするし、反応がいまいちなようにも思う。忘れっぽくなったし、何となくおかしいなあと感じている。でも、別居している息子に状況を伝えても分かってもらえない。私が気にしすぎなのかな？



この前、祖父に会いに行った1時間程度では、何もおかしさは感じなかった。高齢で耳が遠いから、何度か聞き返してきたけど、普通に会話できたね。



[アドバイス]

同居の家族は、何かしてほしいのではなく、機能が低下してきたことを知ってほしいことが多いです。別居している家族も、1泊～2泊程度自宅に預かる、泊まりに行く、一緒に旅行に行くなど、少し長めの付き合いをしてみると、同居の家族が言っていることを理解できることがあります。



認知症初期集中支援チームがあります

介護事業所や地域包括支援センターの専門職と認知症サポート医がチームとなり活動します。認知症またはその疑いがある人を訪問し、症状やご家族の困りごとを把握した上で、助言や支援を行います。お気軽にご相談ください。

認知症に優しい地域づくり 「気付く」「つながる」「寄り添う」

認知症の相談先

「自分は（家族は）認知症かもしれない、ちょっと心配…」という人の相談先を紹介します。個別面談ができますので、予約をして行くといいでしょう。

- ▼健康推進課 ☎(23) 0024
- ▼地域包括支援センター
さがら ☎(53) 1900
オリブ ☎(22) 8822
さんい ☎(23) 3600

認知症を学ぶ

「認知症のことを知りたい」という団体や集まり、個人が受けられる講座があります。

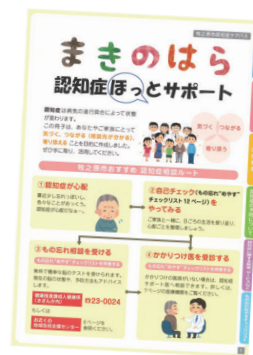
- ▼認知症サポーター養成講座
「認知症キヤラバンメイト」というボランティアが、劇や紙芝居などを使って、認知症について分かりやすく伝えていきます。長寿介護課 ☎(23) 0076 にご相談ください。
- ▼健康推進課 保健師が地域への出前講座を実施しています。

見守りネットワーク事業所

市内77カ所の事業者が、認知症に限らず地域の中で見守りに協力してくれています。令和3年度は、新聞店から「新聞が溜まっている」などの2件のご連絡をいただき、安否の確認を行うことができました。日頃から、ご近所や出入りの業者さんとあいさつが交わせる環境づくりをしましょう。

認知症ほっとサポート（認知症ケアパス）

市内の認知症支援の情報が載っている冊子です。両庁舎やさざんか、地域包括支援センターに置いてありますので、ぜひご覧ください。



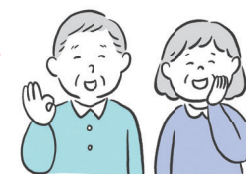
インタビュー

Aさんご夫婦は令和3年5月、自宅の前を通りがかったSさんに声をかけ、その後、地域包括支援センターへ連絡をしてくださいました。どのような気持ちで見守り、声掛けをしたのか、当時の様子をお聞きしました。

1年ほど前の夕方、近所の高齢の女性Sさんが独り言を言いながら、家の前を通りがかりました。
(様子が何かおかしいなあ。国道も近いし、車にひかれちゃったらいかん。急に声をかけて驚かすのは良くないから、自然な声掛けをしよう) と思い、「Sさん、散歩しているの？ うちへ行くか」と声をかけ、腕を組んで家まで付き添いました。既にご主人は亡くなっていたのですが、「お父さんがどっか出かけていなくなっちゃった」と話していました。
Sさんの子どもたちは別の場所で暮らしていましたが、日頃から地域の皆さんがSさんの様子を見てくれていたおかげで、地域包括支援センターの支援を受け、親族と相談の上、施設に入所できました。

<Aさんからのメッセージ>

地域包括支援センターは、こちらが連絡したらすぐに対応してくれて、とても助かりました。認知機能の低下があることをできるだけ隠したいと思う人も多いと思いますが、近所に分かってもらった方がいいのではないかと思います。また、別居している場合には、お互いの声掛けがあると、よりよい関係を築けるのではないのでしょうか。



認知症は、誰にでも起こる可能性のある脳の病気です。日常生活や仕事などの社会生活がうまく送れなくなるといった症状が出てきますが、周囲の人がサポートすることで、認知症になっても安心して地域で暮らしていくことができます。高齢者や認知症の人を支えることに協力ください。

問い合わせ 長寿介護課 都築理恵子 ☎(23) 0076